



寄磯小学校 Yoriiso Deer (ヨリイソディア)

■ 郷の音 増子 光昭さん

■ 特集 Yoriiso Deer 修復プロジェクト

- ・大原浜に続く御神木祭
- ・小学校福祉教室・認知症サポート講座
- ・リボンアート通信

■ お知らせ

- ・牡鹿総合支所大原出張所が開所します
- ・ほっとまる図書館に子ども読み聞かせコーナーを設けました！
- ・石巻市牡鹿地区慰霊碑が建造されました



Yoriiso Deer 修復プロジェクト

寄磯小学校の校庭に、鹿の親子の像があります。

鹿の像は海を見つめ、遠く金華山を仰ぎ、金色の立派な角は太陽の光に輝いていました。

いんぷおおしか編集室は、誌面をお届けに月に一度、寄磯小学校に訪れています。1年前に見た鹿の像は白くなかったような。

確か角もなかったような。

今月号の特集では、Yoriiso Deer (ヨリイソディア) と名付けられて校庭に鎮座し、少しずつ進化を遂げている白い鹿の像の実態に迫ります。



■ 増子 光昭 (ますこ みつあき) さん

牡鹿中学校の増子光昭校長先生は、教員生活37年間の内9年間にわたり、牡鹿半島で教鞭をとられてきました。そして今年3月末に定年を迎えられます。牡鹿の子どもたちと共に長い時間を過ごされてきた増子先生にお話を伺いました。

教員になったのは？

増子校長先生は石巻市泉町出身。子どもの時から度々、家族と一緒に牡鹿半島に遊びに来ていたそうです。商業捕鯨が禁止になる前の賑やかな町のこと、捕鯨会社で鯨の解体を間近で見学したこと、十八成浜の海水浴場やキャンプ場にも訪れた思い出を話してくださいました。

幼い頃からものを作ることや電気、機械がとても好きで、その楽しさを子どもたちに教えたいと思い、昭和57年に教師の道へと進みました。初任校は塩釜で過ごし、その後、地元の石巻へ。牡鹿内の中学校が統合するときに、鮎川中学校に教頭先生として、平成21年に赴任しました。震災後に再び緑があり、平成27年から牡鹿中学校の校長先生を務めています。

一人ひとりが主役の生徒たち！

これまでたくさんのお鹿の子どもたちと過ごしてこられた増子校長先生。ほかの地域にはない、牡鹿の子どもたちらしきお聞きすると、「一人ひとりが主役になっていること。そして、この地域の子どもたちは、思いやりがあつて、人間力がありまね。震災を経験したからこそ、がんばっている親の姿をしっかり見て、生徒が自分の事として地域に貢献できることはなんだろうかと考えています。そこにしっかりとした思いがあり、思考して行動しています。

そんな子どもたちが住むここ牡鹿で、教員生活を閉じることになったことは、自分にとつても幸せなことです」と話してくださいました。

教員としてもつとも嬉しい時は、生徒たちが「わかった！」と授業の内容を理解してくれた時、と嬉しそうに話す増子校長先生。皆が理解できて、楽しいと思える授業をしようという心がけてきたそうです。「教師として勉強を教えながら、逆に子どもたちから多くのことを学び、これまで教師として成長することができました」と教員生活を振り返りました。

子どもたち、若い人に伝えたいこと

【なぜば成る 為さねば成らぬ 何事も成らぬは人の 為さぬなりけり】

「どんなことも諦めずに行動すれば、結果がついてきます。行動と努力をすることで、様々なチャンスや人との出会いが訪れるものです。人生を開いてゆきつかけとなる人との出会いを見過ごすことなく、チャンスを掴んでいくことが大切なことです。これから沢山の人と出会っていくと思うけれど、人との出会いを大切にしてください」と話してくださいました。

増子校長先生、長い間牡鹿に関わり、これからの時代を担う人々を育ててくださり本当にありがとうございます。これからも牡鹿を温かく見守り続けていただけたら嬉しく思います。

Q2. 白い色はどうやって決めたの？

A2. (石森先生) 白い塗装が残っていた部分から、もともと白だったのではないかということに。リボンアート・フェスティバルで白い鹿の像があるということから・・・。

(咲来さん) 私たちは本物の鹿の色で茶色がいいって言ったんだけど、先生が白がいいって!!

(成海さん) 角は本物の鹿の角をつけて、金色に塗ったの。塗るなら本物の角でなくても良かったかも。笑

(石森先生) 鹿をフェンスの裏から移動させた時も、角を探していた時も、いつもひとつと言うとお家の方がすぐに動いてくれるんです。角を入れるために頭の部分を少し掘ったので、それを埋めるくらいいいかと思ったんですけど、子供たちがしっぽもつけたいとなって。

(愛生さん) セメントでしっぽもつけて完成!!



いつからか校庭の片隅に置かれていた鹿の像は、地域の方と子どもたちの手によってよみがえったようです。こうして、にぎやかに子どもたちに囲まれ、なでられ、愛されている鹿の像に出会いました。

動かないはずの鹿の像が寄磯浜の海風を感じ、太陽をめいっばいに浴び、とても嬉しそうに見えるのは気のせいでしょうか。

続 Yoriiso Deer 修復プロジェクト



「卒業生の写真には子どもたちと一緒に Yoriiso Deer の姿が！」

しかし、Yoriiso Deer 修復プロジェクトには大きな謎が残っているようです。もともと、この鹿の像はいつ誰が作ったのでしょうか。この鹿の像を制作した寄磯小学校の卒業生を探しています。古いアルバムを見た校長先生の推理によると、昭和年代の卒業生の卒業制作の可能性がある。つまり、50歳代の方が制作秘話を知っているかもしれないとのことでした。鹿の像を修復した子どもたちも、もともと制作した先輩に会ってみたいそうです。



Yoriiso Deer と名付けられた白い鹿の像のことを、寄磯小学校の5・6年生に取材させていただきました。春の訪れを感じる、とある日の5時間目。いんぷおおしか編集室メンバーも少し緊張しながら、はじめはみんなで自己紹介。写真左から6年生の渡邊成海(わたなべなるみ)さん、5年生の渡辺愛生(わたなべめい)さん、6年生の浜畑咲来(はまはたさら)さん。そして担任の石森慧(いしもりけい)先生。



鹿の像は、もともと校庭のフェンスの外に捨てるように置かれていました。それを見ていた子どもたちと先生が、何とか鹿の像を救出してあげたいと思ったところから「Yoriiso Deer 修復プロジェクト」がはじまったようです。

Q1. はじめは、鹿の像は校庭になかったよね。どこにあったのかな？

A1. (成海さん) 校庭のフェンスの後ろに隠れていたので、海の近くに移したんです。それから、白く塗ろう、角をつけよう! ってなって行って、みんなで少しずつきれいにしていったんです!



(石森先生) 移動する場所は、子どもたちが海が見えて寄磯浜が一望できる場所に移してあげたい、ということだったので、今の場所にしました。鹿の像はずっと校庭の隅にいたから。

(咲来さん) 地域の方が協力してくれて、校庭のフェンスの裏から今の場所に、リフトで移動させたんです。

Yoriiso Deer 修復プロジェクトの歩み

- 2017年 ・保護者がクレーンで鹿の像を移動
- 2018年 ・海の見える場所に移動
- ・きれいに磨き、白いペンキで塗装
- ・本物の鹿の角をつけ金色に塗装
- ・壊れた片耳を修復、しっぽをつける
- ・危なくないよう、鹿の像(Yoriiso Deer)の周囲に柵を設置

(愛生さん) 移動させた後に、まず汚れを落としてきれいにして・・・。その後白く塗って、かけてしまっていた片耳をセメントでつけていきました!

牡鹿半島の皆さん、こんにちは!リボーンアート・フェスティバル2019が今年の夏に開催されます。2回目となる今回も、「アート・音楽・食」の分野のアーティストやシェフと一緒に、牡鹿半島の魅力を伝えられるようなお祭りにできるよう、スタッフ一同準備に奮闘しています。今月から、いんぷお・おしかさんにご協力いただき、開催直前まで「リボーンアート通信」ということで事務局からのお知らせや、アートのお話などお伝えしていきますので、どうぞよろしくお祈りします!
今回はエリアごとにキュレーター(アート作品を監督する人)が異なり、牡鹿半島の中では5組のキュレーターが担当しています。今回は担当エリアとともに、キュレーター陣をご紹介します。(事務局:志村)

実は裏浜や、牡鹿半島のあちこちで...参加アーティストやシェフの知りたいこと、興味深いものは、牡鹿半島全域に散りばめられています。風景を探しに行ったり、お話をうかがったり、食材を調べていたり、なんかしらの準備をしている姿を見かけるかもしれません。その時は、応援をどうぞよろしくお祈りいたします!

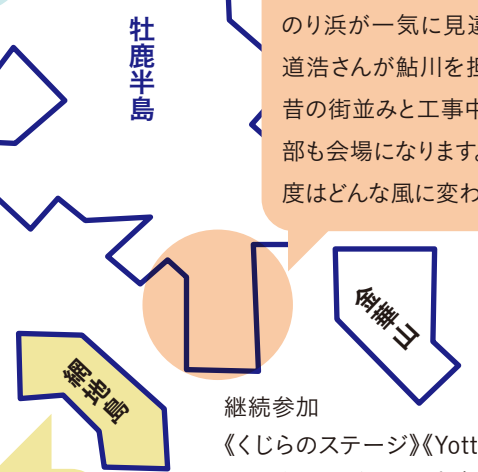
▶ 桃浦 (キュレーター:小林武史)
昨年閉校した荻浜小学校を含む桃浦エリア。防潮堤やかさ上げ工事の真っ只中であり、震災という出来事を感じるような場所での作品やプロジェクトを予定。もののうらビレッジでのイベントもお楽しみに!

▶ 荻浜 (キュレーター:名和晃平)
「はまさいさい」や休憩スペースなどの牡鹿ビレッジがある荻浜エリア。白い貝殻ビーチに佇んでいる《White Deer(Oshika)》作者、名和晃平さんが担当します。自然の地形をいかした作品などを予定しています。

▶ 鮎川 (キュレーター:島袋道浩)
のり浜が一気に見違えた、《起こす》の作者、島袋道浩さんが鮎川を担当しています。自然と同時に、昔の街並みと工事中の風景が混在する、街の中心部も会場になります。普段見慣れていた場所が、今度はどんな風になるのでしょうか?

▶ 小積 (キュレーター:豊嶋秀樹)
小積も新しくエリアに加わります!アウトドア大好きな豊嶋秀樹さんが、牡鹿半島の自然や鹿のリサーチから内容を考えています。ご近所の方の散歩道、フェルメント(鹿の解体処理施設)の付近に作品を点在させます。

▶ 網地島 (キュレーター:ワタリウム美術館の和多利恵津子、浩一)
2017に全体のキュレーションを手がけたワタリウム美術館の和多利ご姉弟は、網地島を担当します。植生や街並み、海の様子も一味違う島全体を舞台に、「東北のハワイ」と呼ばれる網地島の魅力を表現していきます。



継続参加
《くじらのステージ》《Yottaの青空カラオケ》でおなじみのYottaさんは、くじらの山車を鮎川で発表予定!

お知らせ 引き続き、地域有償スタッフの募集!!

- 条件:開催地域にお住まいの方。性別・経験不問
- 業務内容:チケットのチェック、アート作品の準備・撤収、お客様・車両の誘導、その他RAFの運営に関する業務
- 業務期間:2019年8月2日(金)~2019年9月30日(月)
- 従事時間:8:00~19:00(予定)
- 勤務地:石巻市中心部・牡鹿半島
- 時給:800円より
- 交通費補助:1日あたり500円を支給

※内容が変更になる場合があります。ご了承願います。

お問い合わせ:一般社団法人Reborn-Art Festival事務局 TEL / 0225-90-4726



©Reborn-Art Festival2017 photo by Shuji Goto

©Reborn-Art Festival2017 photo by Shuji Goto

大原浜に続く御神木祭

2月11日に大原浜の三熊野神社で御神木祭が行われました。この祭りは毎年、大漁祈願、家内安全、商売繁盛などを願って行われています。今年も大崎市三本木地域や茨城県にある茗溪学園の高校生がボランティアとして参加し、震災後から地域の方々と交流が続いています。地域住民と協力にきた大勢の人で大きな山車を引つ張りながら大原浜を歩きました。

大原浜の石森彦一区长さんによると「もともとこの祭りは旧暦の2月11日(現在の3月)、定置網を入れる期間に大漁祈願の祭りとして行われていた。大原浜は大謀網発祥の地で、昔はマグロが捕れ、網師が多かった地域」のことです。昔は網師さんがチームで御神木を奪い合い、御神木を木に縛り付けることができたチームがその年は大漁になるといわれ、海上で御神木を奪い合う時の迫力はものすごかったと話してくれました。

祭りの形は時代とともに変わっていますが、地域の方々の祭りにかける力、想いは震災を経ても続いています。



写真提供:一般社団法人 サードステージ



小学校福祉教室

2/22

鮎川小学校と大原小学校の3・4年生は、車椅子での移動や手が使いづらかったり、耳が聞こえづらかったりする体験を学びました。子どもたちは社会福祉協議会の職員から、「みんなが使いやすい」を目指したユニバーサルデザインのこと、高齢者や体の不自由な人が動きやすいように考えられたバリアフリーの建物の説明を聞きました。車椅子に乗っての移動方法、段差の介助方法を聞いたあと、2人1組になり車椅子に乗ってみました。この学習を機会に、色々な不自由さを持っている人がいることを知り、周囲の人を思いやるという体験を積んだことでしょう。



互いに協力しました

認知症サポート講座

2/28

寄磯小学校で認知症について学ぶ講座が開催されました。講師は、石巻市役所介護保険課の大須美津子(おおすみつこ)さん。認知症という病気についての説明や、認知症の方への接し方を学びました。先生たちの寸劇で、認知症の方への接し方の良い例と悪い例が披露され、認知症の方へ優しく接すると症状がゆるやかに改善すること、強く接すると症状が悪くなることを学びました。また、認知症サポーターの阿部貞子(あべていこ)さんによる、認知症のおばあちゃんとその家族の物語「だいじょうぶだよーばくのおばあちゃんー」という絵本の読み聞かせがあり、児童からは「これからは困っている方がいたら積極的に助けたい。」という心強い感想が発表されました。



先生方の寸劇で認知症への理解を深めました

▶ 牡鹿総合支所大原出張所が開所します

東日本大震災で被災し、大原生活センターの隣に再建が進められていた牡鹿総合支所大原出張所が4月8日(月)に開所します。

開庁時間：午前9時から午後4時まで
所在地：石巻市大原浜字町16番地3

牡鹿総合支所大原出張所 開所セレモニー
開催日時：4月10日(水)午前10時から

お問合せ：牡鹿総合支所市民生活課 電話 0225-45-2112



※3月12日現在

▶ ほっとまる図書館に子ども読み聞かせコーナーを設けました！

読み聞かせの効果は、親子のコミュニケーションを深めることができたり、想像力・知的好奇心が育つなど、親子にとってプラスの効果があるといわれています。

ほっとまる図書館には多数の絵本・児童書を蔵書しており、随時、新刊も入荷しております！

開閉時間：午前11時～午後7時
(日曜日及び休館日前日：午前10時～午後5時)
休館日：月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)
お問合せ：牡鹿交流センター 電話 0225-45-3618



▶ 石巻市牡鹿地区慰霊碑が建造されました

東日本大震災で犠牲になられた方を悼む慰霊碑が建造され、3月11日、大原小学校体育館で除幕式典が行われました。慰霊碑には地区ごとに、亡くなられた方の名前(遺族の方の了承があった方のみ)が刻まれています。

大原浜県道沿いに位置しますので、近くにおいでの際は、立ち寄り、犠牲になられた方の冥福をお祈りしてください。

設置場所：石巻市大原地区 石巻市牡鹿地区慰霊公園内



てくてくおしか

牡鹿のとある一家のお話し。

お父さんは、朝から軽トラのマフラーを修理してました。夕方になり、お母さんは、直りたての軽トラで用足しに行きました。清崎の病院に到着。軽トラを降りると、なんだかこうばしい香りがしてきました。

お母さんは、「病院の夕食かしら、いい香り。」と思いました。

次は、ガソリンスタンドに。給油中に軽トラを降りると、焼きおにぎりのような、なんだかい香りがしてきました。お店の人と、どこのお家の夕飯ですかね、美味しそうな匂いがありますね、と話しました。

用足しが終わったお母さんは、お家へと軽トラを走らせました。

・・・ん？ 運転をしても、なんだかこうばしい香りがしてきます。

お母さん「ただいま」
お父さん「軽トラのマフラー、何ともなかつたか」

お母さん「変な音もなかったし、直つていたみたいよ」

お父さん「錆びてボロボロになったところに、味噌塗ったからな。味噌はすごいな。」

お母さん「・・・」

味噌は熱で固まるとセメントよりも固くなる。先人の知恵だとか。(たなか)

